

番号	(C) 施策	指標
個別施策		
1	・たばこが健康に及ぼす影響について一層の普及啓発を図るとともに、特に喫煙率の高い働く世代の健康希望者に対する禁煙支援の強化を図る。	20歳以上の者の喫煙率
2	・健康増進法改正の趣旨に鑑み、効果的な受動喫煙防止対策の推進を図る。	受動喫煙の機会を有する者の割合（行政、医療・職場・家庭、飲食）
3	・食生活、運動等の生活習慣の改善について、企業や保険者と連携し、多様な働く世代に対する効果的な普及啓発等を行う。	食塩・野菜・果物摂取量、運動習慣者の割合、リスク認識者の割合
個別施策		
4	・肝炎に関する正しい知識の普及啓発、肝炎ウイルス検査の受診勧奨等の取組を推進する。	肝炎ウイルス検査受検率（国民加入者40歳検診対象者）
5	・HPVワクチンの有効性等について市民の理解を促進し、ワクチン実施率の上昇を図る。	HPVワクチン実施率
個別施策		
6	・これまでの普及啓発の効果を改めて検証した上で、市町、企業等と連携し、より広がりやすい情報の発信を行う。	がん検診受診率（胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がん）
7	・先進的な取組事例等について市町との情報共有を図り、より効果的な受診勧奨、より利便性の高い検診の実施等を促進する。	がん検診受診率（胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がん）
8	がん検診従事者を対象にした研修の充実、検診実施体制等の評価及びその結果の分かりやすい公表、がん登録情報の活用等を通じて、がん検診の精度管理の取組を促進する。	
9	市町における精密検査の受診率向上、個別検診実施機関に関する事業評価等の取組を促進する。	個別検診実施機関に関する事業計画の実施市町数
10	・栃木県がん診療連携協議会、栃木県医師会等と連携し、病院や指定診療所を対象に、「がん登録推進法」に基づく全国がん登録制度及びそれに基づくがん登録情報の届出に関する周知、研修等を行う。 ・全国がん登録の精度の向上を図るため、栃木県がん診療連携協議会、栃木県医師会等と連携し、指定診療所の増加等について検討を行う。 ・全国がん登録情報を活用し、がん患者等をはじめ市民にとって分かりやすい情報提供を推進する。	DCO割合、DCI割合

番号	個別施策	指標
11	栃木県がん診療連携協議会と連携し、医療安全の確保、チーム医療の充実、がん医療の質の評価等について、それぞれの拠点病院等の実情に応じた取組を支援する。	がん拠点病院の診療実績（院内がん登録数、手術件数、薬物療法患者数、放射線治療患者数、緩和ケアチーム新規患者数、医療圏診療実績）
12	拠点病院等と地域の医療機関等との役割分担及び連携強化を図るため、栃木県がん診療連携協議会、栃木県医師会等と連携し、それぞれの地域の実情に応じた取組を支援する。	緩和ケアチーム新規患者数、医療圏診療実績
13	栃木県がん診療連携協議会、栃木県医師会等と連携し、県内におけるがんゲノム医療や小児・AYAがん医療、希少がん・難治性がん等の医療体制について検討する。	年間入院小児がん患者延べ数
14	拠点病院等と地域の医療機関等との役割分担及び連携強化を図るため、栃木県がん診療連携協議会、栃木県医師会等と連携し、それぞれの地域の実情に応じた取組を支援する。	がん拠点病院の診療実績（院内がん登録数、手術件数、薬物療法患者数、放射線治療患者数、緩和ケアチーム新規患者数、医療圏診療実績）
15	がんの診断時から適切な緩和ケアが提供される体制を整備する。	拠点病院等の緩和ケアチーム新規平均患者数
16	栃木県がん診療連携協議会と連携し、がん患者等が抱える苦痛等の適切な把握、主治医等と緩和ケアチームとの連携強化、緩和ケアの質の評価及び改善等について、それぞれの拠点病院等の実情に応じた取組を支援する。	患者の苦痛や気持ちのつらさやを和らげる支援は十分であると思う患者の割合等
17	切れ目のない緩和ケアを提供するため、栃木県がん診療連携協議会や栃木県医師会等と連携し、地域における課題の解決に向けた取組を支援していく。	緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数
18	栃木県がん診療連携協議会と連携し、がん患者等が抱える苦痛等の適切な把握、主治医等と緩和ケアチームとの連携強化、緩和ケアの質の評価及び改善等について、それぞれの拠点病院等の実情に応じた取組を支援する。	緩和ケアに関する地域連携を推進するために、地域の施設が開催する他職種連携カンファレンスに参加した年間回数
19	標準的治療の提供、医療安全の確保、チーム医療の充実等について、拠点病院等における人材の確保及び育成を支援する。	緩和ケア研修会修了者数（拠点病院以外への施設の医師・歯科医師）
20	・多様化するがん患者等の相談に適切に対応できるよう、栃木県がん診療連携協議会等と連携し、相談支援センター等における相談員の資質向上を図る。	県内のがん等に関する医療従事者数（がん治療認定医）

番号	個別施策	指標
21	栃木県がん診療連携協議会等と連携し、相談支援センター等の周知を行う。	がん相談支援センターでの自他検診からの新規相談件数
22	外来初診時から治療開始時まで、がん患者や家族ががん相談支援センターを訪問する体制を整備する。	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合
23	相談支援体制へのアクセシビリティを向上させるため、オンライン等を活用した体制整備を進める。	
24	栃木県がん診療連携協議会相談支援部会等と連携し、がん相談支援に従事する者の技術向上のための支援を行う。	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数
25	栃木県がん診療連携協議会相談支援部会と連携し、ピアサポーターの養成と共に患者サロン等で活用できる体制を整備する。	ピアサポーター養成数 患者サロン開催数
26	オンライン等を活用し、がん患者やその家族が情報を取得しやすい環境を整備する。	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援、サービス、場所が十分あると思う人
27	労働局、経済団体等と連携し、がんの基本的知識や治療と仕事の両立支援等に関する啓発等を実施し、事業主、企業の人事労務担当者等の理解促進を図る。	がんの治療等のために選択しながらかき続けられる環境にあると思う市民の割合
28	労働局、県、医療機関、経済団体等で構成する「栃木県地域別支援推進チーム」等を活用し、それぞれの取組状況等について情報共有を図るとともに、これらの関係者と連携し、がん患者等、事業主等に対し、効果的にがん患者の就業支援に関する情報提供等を推進する。	がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合
29	がん患者等の就業に関する相談窓口として、相談支援センターの開始を図る。	拠点病院等のがん相談支援センターにおける就業に関する相談件数
30	がん拠点病院等において、自殺リスクに対する対応、相談支援の方法や関係機関との連携を明確にし、関係職種に情報共有を行う体制を整備する。	精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合
31	がん患者やがん経験者が周囲への心理的な負担感や疎外感を抱くことなく社会生活を営めるよう、がん拠点病院等や関係団体等と連携し、がんに対する正しい理解の普及啓発を実施していく。	がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じる割合
32	AYA世代のがん患者等支援事業について一般職員及び医療機関等へ広く周知を行う	妊孕性温存療法・温存後生殖補助医療費用助成件数 県内のピアランスクエア助成件数 在宅ターミナルケア実施市町数・助成人数
33	とちぎ子ども医療センター、拠点病院等、栃木県医師会、患者団体等と連携し、小児期から成人期への移行期における診療提供体制、AYA世代のがん診療提供体制、長期フォローアップ体制、小児在宅医療の提供体制等の整備について検討を行う。	年間入院小児がん患者延べ数
34	栃木県がん・生体医療ネットワーク等と連携し、妊孕性温存療法施設指定医療機関の拡充を図る。	妊孕性温存療法施設指定医療機関数
35	とちぎ子ども医療センター等と連携し、遠隔教育の導入等を通じて、療養中における高校生の教育環境の充実を図る。	
36	とちぎ子ども医療センター、拠点病院等、栃木県医師会、患者団体等と連携し、小児・AYA世代のがん経験者の就業支援を含め、小児・AYA世代のがん患者等の相談支援体制の整備推進を図る。	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合
37	小児・AYA世代のがん患者等の負担軽減のため、ピアサポートや始成制度等の患者支援に関する情報の周知を図る。	
38	・栃木県がん診療連携協議会、栃木県医師会等と連携し、高齢者ががん診療ガイドラインの周知徹底を図る。 ・がん診療連携拠点病院、かかりつけ医、在宅療養支援診療所、訪問看護事業所等と連携し、がん患者とその家族等の療養生活を支えるための体制を整備する。	認知症（ACP）に係る認知度
39	栃木県がん診療連携協議会、患者団体、市町、民間企業等と連携し、学習指導要領に基づき、学校におけるがんに関する授業等を行う。	
40	教員や外部講師を対象にした研修の充実等、学校におけるがん教育の推進のために必要な環境の整備を図る。	がんについての認知度
41	企業、関係団体、患者団体、拠点病院等と連携し、がんの予防、緩和ケア、がん患者の就業、ピアランスクエア支援、妊孕性温存療法等の正しい知識について、市民に対する普及啓発を行う。	

番号	(B) 目標（目的を達成するためにクリアすべきステップ、ゴール：中間アウトカム）
----	--

番号	(A) 目的（あるべき姿：分野アウトカム）
----	-----------------------

1	がんの予防及び早期発見ができていく
1 指標	がん罹患率
2 指標	早期がん割合（全国がん登録：進展度、総合、上皮内と腸癌の割合）

1	がんによる死亡率の減少
1 指標	がんの年齢調整死亡率
2 指標	5年相対生存率

2	がん医療が充実している
1 指標	がんの診断・治療全体の総合的評価
2 指標	納得のいく治療を選択できたと思うがん患者の割合
3 指標	がんの標準的診療実績・集学的治療を担う医療機関数
4 指標	がん拠点病院の診療実績（院内がん登録数、手術件数、薬物療法患者数、放射線治療患者数、緩和ケアチーム新規患者数、医療圏診療実績）
5 指標	年間入院小児がん患者延べ数

2	がん患者の療養生活の質の維持向上
1 指標	身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合
2 指標	精神的な苦痛を抱えるがん患者の割合

3	がん患者やその家族を支える環境が整っている
1 指標	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合
2 指標	認知した場所まで通じたがん患者の割合

3	がんになってからも安心して暮らすことが出来る社会の構築
1 指標	責任を分かち合い日常生活を送れていると感じるがん患者の割合